

研究主題

運動の楽しさや喜びを味わい、 主体的・協働的に取り組む西巣っ子の育成 ～授業づくり・環境づくりを通して～

中間発表

ご挨拶

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

校長 野村 友彦

本校は、令和2・3年度の豊島区教育委員会研究開発指定校として、今年度より完全実施となった改訂学習指導要領の目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の研究開発に取り組んでいます。教科は昨年度に引き続き「体育科」を窓口として、運動や健康に関する課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習活動に取り組む児童の育成を主題といたしました。しかしながらコロナ禍の中では、数々の単元内容に制限がかかり十分な活動が実践できませんでした。そのような中でも、豊島区のGIGAスクール構想推進により児童1人に1台のタブレットパソコンが貸与されたので、体育科の授業改善をICT活用の視点からも研究を進めることができました。また、昨年度の東京都研究開発委員会が研究開発した新しい教材を取り入れると共に東京都小学校体育研究会研究協力校として研究実践を提供させていただきました。その成果として、全国学校体育研究優良校として表彰を受けるに至りました。まだまだ、授業改善の道半ばではございますが、このリーフレットをご一読いただき、ご指導・ご助言を賜りますようお願い申し上げます。そして、各学校の指導改善・学習改善に少しでもお役立ていただければ幸いです。

最後に本校の研究を支え、ご指導をいただきました 東海大学体育学部体育学科教授 内田 匡輔 様、東京都多摩教育事務所指導課統括指導主事 美越 英宣 様をはじめ豊島区教育委員会の先生方に心より感謝を申し上げます。



豊島区立西巣鴨小学校

各領域の運動の特性

(学習指導要領解説「体育編」第2章第1節 教科の目標及び内容より)

	A 体づくり運動系	B 器械運動系	C 陸上運動系	D 水泳運動系	E ボール運動系	F 表現運動系
全体	体を動かす楽しさや心地よさを味わい運動好きになるとともに、心と体の関係に気付いたり、仲間と交流したりすることや、様々な基本的な体の動きを身に付けたり、体の動きを高めたりして、体力を高めるために行われる運動である。	様々な動きに取り組んだり、自己の能力に適した技や発展技に挑戦したりして技を身に付けたときに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。	自己の能力に適した課題や記録に挑戦したり、競走(争)したりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。	水の中という特殊な環境での活動におけるその物理的な特性(浮力、水圧、抗力、揚力など)を生かし、浮く、呼吸する、進むなどの課題を達成し、水に親しみ楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。	競い合う楽しさに触れたり、友達と力を合わせて競争する楽しさや喜びを味わったりすることのできる運動である。	自己の心身を解放して、イメージやリズムの世界に没入してなりきって踊ったり、互いのよさを生かし合ったり仲間と交流して踊ったりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。
低学年	体づくりの運動遊び 体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、伸び伸びと体を動かしながら、様々な体の動きを身に付けることを主なものとする運動遊びである。	器械・用具を使つての運動遊び 様々な動きに楽しく取り組み、基本的な動きや知識を身に付けたときに喜びに触れ、その行い方を知ることのできる運動遊びである。	走・跳の運動遊び 走る・跳ぶなどについて、友達と競い合う楽しさや、調子よく走ったり跳んだりする心地よさを味わうことができ、また、体を巧みに操作しながら走る、跳ぶなどの様々な動きを身に付けることを含んでいる運動(遊び)である。	水遊び 水中を動き回ったり、もぐったり、浮いたりする心地よさを楽しむ運動遊びである。それぞれの児童の能力にふさわしい課題に挑み、活動を通して水の中での運動の特性について知り、水に慣れ親しむことで、課題を達成する楽しさに触れることのできる運動遊びである。	ゲーム 主として集団対集団で、得点を取るために友達と協力して攻めたり、得点されないように友達と協力して守ったりしながら、競い合う楽しさや喜びに触れることのできる運動(遊び)である。また、基本的なボール操作とボールを持たないときの動きを身に付け、ゲームを楽しむことのできる運動(遊び)である。	表現リズム遊び 身近な動物や乗り物などの題材の特徴を捉え、そのものにならざる全身の動きで表現したり、軽快なリズムの音楽に乗って踊ったりする楽しさに触れることのできる運動遊びである。
中学年	体づくり運動 体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、低学年で学習した様々な基本的な体の動きに加えて、更に多様な動きを身に付けたり、動きの質を高めたりする運動である。	器械運動 技を身に付けたり、新しい技に挑戦したりするときに楽しさや喜びに触れたり、味わったりすることのできる運動である。	走・跳の運動 走る・跳ぶなどについて、友達と競い合う楽しさや、調子よく走ったり跳んだりする心地よさを味わうことができ、また、体を巧みに操作しながら走る、跳ぶなどの様々な動きを身に付けることを含んでいる運動である。	水泳運動 安定した呼吸を伴うことで、心地よく泳いだり、泳ぐ距離や浮いている時間を伸ばしたり、記録を達成したりすることに繋がり、楽しさや喜びに触れたり味わったりすることのできる運動である。	ゲーム 主として集団対集団で、得点を取るために友達と協力して攻めたり、得点されないように友達と協力して守ったりしながら、競い合う楽しさや喜びに触れることのできる運動である。また、基本的なボール操作とボールを持たないときの動きを身に付け、ゲームを楽しむことのできる運動である。	表現運動 自己の心身を解放して、イメージやリズムの世界に没入してなりきって踊ることが楽しい運動であり、互いのよさを生かし合ったり仲間と交流して踊る楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。
高学年	体づくり運動 運動の楽しさや喜びを味わうとともに、中学年までに身に付けた体の基本的な動きを基に、体の様々な動きを高めるための運動である。	器械運動 技を身に付けたり、新しい技に挑戦したりするときに楽しさや喜びに触れたり、味わったりすることのできる運動である。	陸上運動 走る、跳ぶなどの運動で、体を巧みに操作しながら、合理的で心地よい動きを身に付けるとともに、仲間と速さや高さ、距離を競い合ったり、自己の課題の解決の仕方や記録への挑戦の仕方を工夫したりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。	水泳運動 安定した呼吸を伴うことで、心地よく泳いだり、泳ぐ距離や浮いている時間を伸ばしたり、記録を達成したりすることに繋がり、楽しさや喜びに触れたり味わったりすることのできる運動である。	ボール運動 ルールや作戦を工夫し、集団対集団の攻防によって仲間と力を合わせて競争する楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。	表現運動 自己の心身を解放して、イメージやリズムの世界に没入してなりきって踊ることが楽しい運動であり、互いのよさを生かし合ったり仲間と交流して踊る楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

研究開発

◎運動の特性を明らかにした一覧表の作成

学習指導要領を見直し、各運動領域の特性を低学年・中学年・高学年ごとに分類、整理した。これにより、教員が授業づくりを行う際に各運動領域のどの特性に焦点を当て、その運動に取り組ませていくかを明確にすることができた。指導と評価の一体化を意識しつつ、楽しい体育の授業づくりの基盤としてこの一覧表を活用することができた。(上図参照)

◎指導案検討会での情報共有

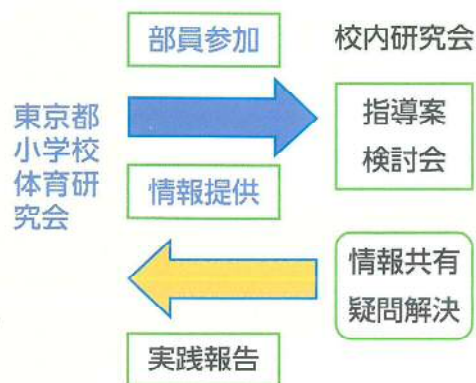
授業づくり分科会の指導案検討会に東京都小学校体育研究会の部員が参加し、情報共有を行った。分科会として研究授業で扱う領域についての疑問を事前にまとめ、部員に専門的な見地から助言・アドバイスをもらうことで校内研究をより充実させることにつながった。

◎各領域部会からの資料提供

教材、指導案などのこれまでの東京都小学校体育研究会の研究の成果物を共有し、研究に生かすことができた。

◎ICTを活用した学習の工夫

タブレットパソコンの一人一台配付を機に様々な工夫を行った。器械運動系領域では、技のポイントを示した図や動画を共有し、動画撮影によって自分の動きと比較したり、動画と合わせた振り返りの記述から評価したりした。またゲーム領域では、タブレットパソコンを作戦ボードとして使用し、保健領域では、生活に関するアンケートを自動集計して授業に生かした。今後は、タブレットパソコンで入力、提出でき、協働性や思考力・判断力・表現力がより高められるような体育カード等の開発に取り組んでいきたい。



高学年分科会

令和2年度 授業づくり分科会の取り組み 授業実践例

たけのこ分科会

(特別支援学級)

単元名 器械運動「跳び箱運動」

運動の特性

跳び箱運動は、今までできる技をより上手にしたり、できそうな技に挑戦してできるようにしたりすることが楽しい運動である。

目指す児童像にせまるための手だて

- ①技のポイントや課題に応じた練習方法が分かるような学習資料
- ②課題把握や動きの確認をするためのICT機器の活用
- ③課題が共有しやすい技能同質のグループ

※番号は、目指す児童像①②とリンク

成果(○)と課題(△)

- グループを技能同質で組んで練習するようにしたことで、友達の課題や変化がとらえやすくなり、学び合いが活発になった。
- タブレットパソコンを使って自分の動きを撮影し課題把握や動きの確認が出来た。撮影する時間を限定することで運動量を確保できた。
- △繰り返し系、回転系の技をそれぞれ1時間ずつ進める学習計画だったが、1単位時間の中に繰り返し系、回転系を設定した方が効果的であった。



目指す児童像

- ①全力で夢中になって運動する児童
- ②友達と協力して課題を解決する児童



単元名 保健領域 病気の予防「病気について考えよう」 器械・器具を使つての運動遊び「たけのこランドであそぼう！」

保健領域の目標について

小学校体育科の目標に「健康・安全についての理解」がある。具体的には、基礎的・基本的な内容を実践的に理解するということである。保健領域では、児童が身近な生活における課題を発見し、解決する過程を通して健康・安全について理解することが重要である。

目指す児童像にせまるための手だて

- ①手洗いチェッカー、養護教諭の助言を基にした手洗いの実践などの体験的な学習
- ②社会や学校の現状を把握し、専門的な見地からアドバイスや助言のできる養護教諭との連携
- ③通常級との交流を見据え、児童の運動能力や実態を考慮した課題別に運動できる場の設定

※番号は、目指す児童像①②とリンク

成果と課題

- 体験的な活動を取り入れることで、正しい手洗いの方法をスムーズに学ぶことができた。
- 養護教諭の助言により、児童が安心して学習に取り組むことができた。
- 手洗いのレクチャー動画や実物投影機などのICT教材を活用することができた。
- △児童同士の対話的な学習の場を設定していく必要がある。



目指す児童像

- ①自らの健康を保持増進しようとする児童(保健)
- ②夢中になって運動する児童(器械・器具を使つての運動遊び)



運動の楽しさや喜びを味わい、主体的・協働的に取り組む西巣っ子の育成
～運動の特性を味わえる楽しい授業づくりを目指して～

中学年分科会

単元名 ゴール型ゲーム「キャンディーボール！」

運動の特性

主として集団対集団で、得点を取るために友達と協力して攻めたり、得点されないように友達と協力して守ったりしながら、競い合う楽しさや喜びに触れることができる運動である。基本的なボール操作とボールを持たないときの動きを身に付け、ゲームを楽しむことができる運動である。

目指す児童像にせまるための手だて

- ①攻守の人数、交代方法、スタートやリスタートの規則などの初めの規則の工夫
- ②前に走る、リスタートを早くすることへ意識を向ける補助運動の工夫
- ③対話的な学習機会の設定
- ④ボール、タグ、コート、作戦カードの教材教具の工夫

※番号は、目指す児童像①②とリンク

成果と課題

- 運動が苦手な児童でも、得点を取る楽しさを味わうことができた。
- 簡単な規則を理解することでゲームに集中し、課題に意識を向けることができた。
- ゲームに生かせる動きのイメージを作ることができた。
- △本ゲームにおける「作戦」をより明確にし、選択したり工夫したりする必要がある。
- △ゲーム後に勝敗を発表するなどして、競い合う楽しさをさらに味わわせる必要がある。



目指す児童像

- ①課題に向けて進んで運動する児童
- ②友達と協力して学び、考えを伝え合う児童



低学年分科会

単元名 表現遊び「にしすランドへ行こう！」

運動の特性

身近な動物や乗り物などの題材の特徴を捉え、そのものになりきって全身の動きで表現したり、軽快なリズムの音楽に乗って踊ったりする楽しさに触れることのできる運動遊びである。

目指す児童像にせまるための手だて

- ①単元を通して、わくわくタイム、はっけんタイム、チャレンジタイムを設定し、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにした。
- ②児童に馴染みのある曲や、軽快な音楽に合わせて補助運動を行い、楽しみながら主運動に繋がるようにした。
- ③単元の最後に発表会を行うことで、お互いの表現を認め合えるようにした。

※番号は、目指す児童像①②とリンク

成果と課題

- 児童に馴染みのある音楽で教師とともに身体を動かすことで、児童も夢中になって運動することができた。
- リズム遊びから取り組むことで、児童全員が抵抗感をもつことなく運動に取り組むことができた。
- 友達の動きを取り入れて、協力して運動することができた。
- △教師と児童で伝え合うことが多く、児童同士の伝え合いが不十分だった。



目指す児童像

- ①夢中になって運動する児童
- ②思いや考えを友達に伝えようとする児童



令和2年度 豊島区立西巣鴨小学校 研究構想図

学校教育目標

元 氣
なかよし
かしこい
西巣っ子

心身ともに健康で、自らのよさを自覚し、学校や社会に貢献しようとする子ども
自分も友達も大切にし、豊かな人間関係と思いやりがある子ども
自らすすんで考え、互いに学び合う、確かな学力がある子ども
地域とのかかわりや学校の歴史や伝統、よさを大切にする、人間性豊かな子ども

社会的背景

- ・学習指導要領の改訂
(令和2年施行)
- ・豊島区教育ビジョン2019
* 健やかな心と体の育成
- ・コロナ禍における体育授業の
在り方

本校の実態

- ・楽しい体育の授業作りのために必要なことは何か、学習指導要領に
基づく体育の授業作りをどうするかを明らかにしたい。(教員の実態)
- ・体育の授業や運動は好きだが、好きではない特定の運動がある。
- ・体育を通して、仲間との達成感や仲間からの称賛を楽しみにしている
児童が多い。(児童の実態)

研究主題

運動の楽しさや喜びを味わい、主体的・協働的に取り組む西巣っ子の育成
～授業づくり・環境づくりを通して～

目指す児童像

低学年分科会	中学年分科会	高学年分科会	たけのこ分科会
・夢中になって運動する児童 ・思いや考えを友達に伝えようとする児童	・課題に向けて進んで運動する児童 ・友達と協力して学び、考えを伝え合う児童	・全力で夢中になって運動する児童 ・友達と協力して課題を解決する児童	・夢中になって運動する児童 ・自らの健康を保持増進しようとする児童

授業づくり

- 運動の特性を踏まえた指導計画の立案
- 課題解決型授業を通した楽しい授業づくり
- 児童が意欲をもてる題材設定
- 運動量を確保できる学習環境の整備
- 主体的・協働的に取り組むための学習資料
(掲示物・学習カード・ICT環境)の工夫
- コロナ禍における体育授業のあり方
* 安心して運動に取り組めるよう、新しい生活様式に合わせた授業方法を提案していく。
- ・指導にあたっての注意点
- ・指導法、指導案の共有

環境づくり

- 体を動かすきっかけづくり
* 体育的活動・運動遊び等の充実を図る。
- ・わんぱくタイム(体育的活動)
運動遊びの機会を増やす。
友達と遊ぶことを楽しむ。
コロナ禍で可能な遊びの幅を広げる。
- ・体育的行事委員会との連携
コロナ禍での運動遊び提案
コーディネーショントレーニング
コロナ禍での体育朝会
体力テスト

研究の視点

「運動の特性を味わえる楽しい授業づくりの実現に向けた授業改善」

●効果的な指導や学習につながる環境の整備

- * 効果的な指導・学習ができるように授業づくり部と環境づくり部を設定し、各分科会で検討・改善を進める。
- ・授業づくり部
【低学年・中学年・高学年・たけのこ学級分科会】指導案の作成、研究授業の実践
- ・環境づくり部
【企画分科会】年間計画・授業の流れの検討、作成
【調査分科会】児童アンケートの内容確認、印刷、集計、分析
【体育的活動・表現分科会】体育的活動の提案、自校体操の検討、作成
【教材教具分科会】教材教具の管理体制・体育倉庫の活用計画検討、提案

成果と課題

研究全体を通して

成果

- ・特性を明らかにし、各運動領域の特性を味わえる授業作りの視点をもって授業の計画、展開を行うことができた。
- ・児童が協働的、対話的に学習するための機会を多く設定したり、教師が意図的に対話を促す声かけを行ったりすることができた。
- ・コロナ禍で制約のある中で、運動の楽しさを味わわせたり、対話的な学習の場を確保したりするために、学校全体で知恵を出し合い、授業づくりを行えた。
- ・タブレットで動画を撮影したり考えを共有したりして、ICT 機器を効果的に活用することができた。

課題

- ・指導と評価の一体化についてまだ曖昧なところや実践できていないところがある。重点項目として扱い、授業改善していく。
- ・対話的な学習の質を高める必要がある。各学年の実態に合わせ、対話的に学習する姿を具体的にイメージすることでより効果的な手立てを講じることができる。

児童アンケートの変容を通して

成果

- ・学校全体として1回目のアンケートと比較したところ、「体育の授業は好き」が0.9Pt 増、「運動することは好き」が2.3Pt 増、「友達と一緒に運動することは好き」が1.6Pt 増だった。また、低中高の分科会ごとに1回目のアンケートと比較したところ、研究授業を行った領域のみならず、2回目のアンケートまでに実施したほとんどの領域で、それらの運動が「好き」「楽しい」と肯定的に回答した児童が増加していた。これらのことから、楽しい授業作りの一定の成果が現れていると考えられる。

課題

- ・個人の回答に着目した場合、領域によっては「好きじゃない」「楽しくない」と否定的に回答した児童が各学年に複数名いる。なぜそう感じたのか、授業内での個別の指導は十分だったのか、など分析を丁寧に行い、さらなる授業改善を図っていく必要がある。

ご指導いただいた講師の先生

東海大学 体育学部体育学科 教授 内田 匡輔 様
 東京都多摩教育事務所 指導課 統括指導主事 美越 英宣 様

令和2年度 研究に携わった教職員

校長 野村 友彦

副校長 荒木 克之

◎研究主任 ☆研究副主任 ○研究推進委員

1年1組 ○中村 翔
 1年2組 大高 茜
 2年1組 蓑田 ゆりか
 2年2組 濱邊 由衣
 3年1組 古澤 比奈子
 3年2組 丸茂 淳平
 4年1組 田宮 希
 4年2組 ○仲村 啓
 5年1組 追田 真澄
 5年2組 ☆星 哲也
 6年1組 平形 佐知
 6年2組 ○加藤 隆志

たけのこ ◎渡部 真吾
 たけのこ 坂本 真実
 たけのこ 渡邊 由佳
 たけのこ 村山 翔万里
 たけのこ ○葉 済理喜
 たけのこ 日野 義隆
 音楽 ○上林 千紗
 図工 吉岡 慎
 少人数 ○西中 丈夫
 養護 田岡 英里香
 特別支援指導員 寺尾 奈緒子
 学校運営補助員 菊池 富美子

学校運営補助員 高橋 由有子
 学校運営補助員 長沼 李奈
 特別支援専門員 近松 淳美
 巡回指導員 村山 聡子
 巡回指導員 市野 知恵
 巡回指導員 湯澤 真理子
 非常勤教員 加藤 純子
 講師 井上 洋子
 講師 砂川 雅美
 事務 小野 崇志
 栄養士 杉原 江梨花
 S C 田中 浩子